

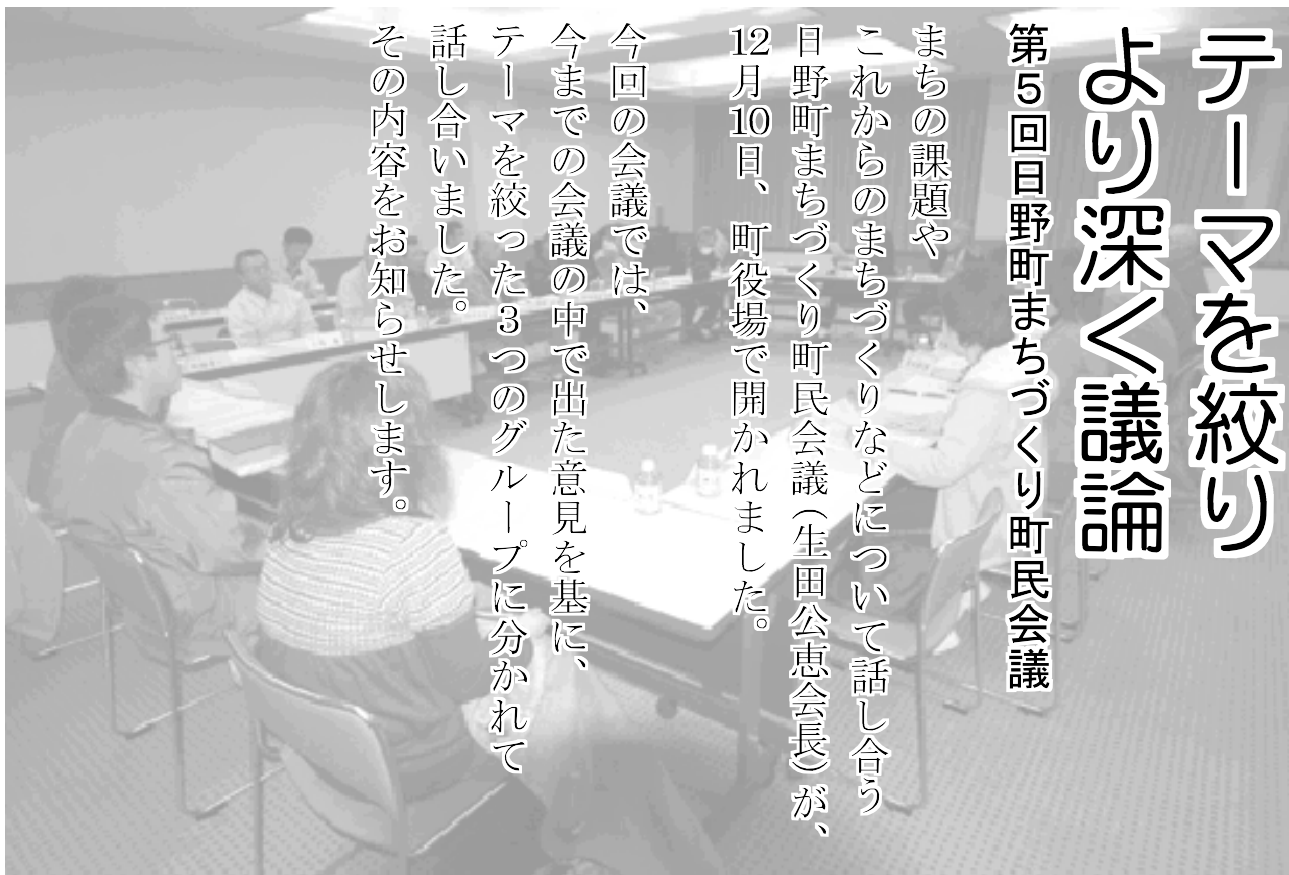
テーマを絞り より深く議論

第5回日野町まちづくり町民会議

まちの課題や

これからのまちづくりなどについて話し合う
日野町まちづくり町民会議（生田公恵会長）が、
12月10日、町役場で開かれました。

今回の会議では、
今までの会議の中で出た意見を基に、
テーマを絞った3つのグループに分かれて
話し合いました。
その内容をお知らせします。



テーマ「少子化・若者定住、文化・観光 生活環境」について

■A班の討議内容

【主な意見】

▼若者定住、結婚対策として男女の出会いの場づくりを考えたい。
町単独では無理なので、近隣町村と連携して、施設や史跡などを巡るウォーキングなど広域的に進めてみたい。町にもホームページや広報などで呼びかけるなど連絡調整をお願いしたい

▼以前は青年団などの若者グループで交流会を行ったことがある。結婚対策は、行政に頼るのではなく、若者自身が積極的になりたい



新しい観光資源のラフティング

▼ラフティング（日野川くだり）が人気がある。今は鮎釣り期間を避けて開催しているが、町の観光資源として活用するため、鮎釣り期間中もできるようにしたい

▼平成21年は、根雨のまちなかで町駅伝が午前中に行われ、午後からは根雨神社の祭りがあったように、イベントを重ねてPRすれば集客できるのではないかと

▼いろいろなイベントがマンネリ化している。ねう祭りや生きいき「ひの」ふれあいまつりなど、今までどおりのやり方でなく、何か新しいものを考えて、地域がにぎわうようにしたい

▼オシドリ観察や宝物山登山など、リバーサイドひのがバスの送迎などできれば集客につながると思う
▼町内の飲食店で、地域の新しい名物料理を研究してみてもどうか
▼草刈りなどのボランティア作業にも燃料費など出してほしい。草刈り機は慣れた人でないと危険。何でもただでしてもらおうという考えは改めたい

テーマ「過疎・高齢化」について

■B班の討議内容

【主な意見】

▼過疎化が進み集落を維持していくことが難しくなっている。農地の草刈りや溝さらいなど、県内のNPO法人「学生人材バンク」に協力してもらうことはできないだろうか。登録している大学生にそうした作業をってもらうては。町内にモデル地区を選んで試行してみたら、ほかの地区にも波及するかもしれない

▼農学部の子生は農村体験を希望する人が多いので、地域で食事を準備するなど協力すれば来てくれると思う

▼高齢者に生きがいを感じてもらうため、それぞれの家庭の漬物の生産・販売を組織化してみたらどうか。収入を得ることで暮らしに張りが生まれるし、町の特産品にもなる。委員の意見を聞いて検討したい

▼具体化するためにノウハウなど研究してみたら

▼日南町では農業研修生など行政が主体となって空家や農地を提供



農作業は若者には貴重な体験

している。日野町でも取り組んでほしい

▼町内にも農業をやりたいという若者が空家を借りて住んでいる。町外に出た人をリターンさせる仕組みが必要。面白い農業ならやりたいと思う人がいると思う

▼この会議のホームページを作ってみてはどうか。話し合いの内容がある程度まとまった段階で全国に発信すると同時に、日野町出身者に今の日野町に興味を持ってもらう

テーマ「産業の振興」について

■C班の討議内容

【主な意見】

▼町内に葬祭会館を作ったらどうか。少しでも町内にお金が落ちるし、職場としても良いと思う

▼山を持っていてもお金にならず、荒れてしまっている。若者に山を開放し、マウンテンバイクなどのコースにしたら良いのではないか

▼農地のレンタルや耕作放棄地の整備をすると農家の人も意気込みを持つのでは

▼農業に全く興味がなかったが、人間にとって食は大事。自分で野菜を作ってみよう。都会の人が田舎で農業をして成功している。町でもそういうことができれば活性化するのはないか

▼他町では新規就農者が採用されたが日野町では受け入れ態勢ができていない。覚悟して受け入れないと農業は難しい

▼町にソフトウェア関連の企業を誘致してほしい。税を優遇し、場所も提供するという話に持ってきてほしい

▼企業誘致しても町で人材が10



まちの自然を生かした産業の発展を

0%確保できるか。日野町にはそうした受け皿がない

▼道の駅のようなものが日野町にはない。朝市など大きな場所であればよいが、大々的にすると出す商品が少ない。米子の商店街は空き店舗が目立つが、そこを借りて朝市はできないだろうか

▼町営バスの本数が少なく不便。バスが上がらない地区には予約制のデマンドバスを走らせるなど、きめ細かい交通対策に取り組んでほしい

次回の会議は2月18日に開かれる予定です